環境省・ゼロカーボンパーク

脱炭素化の取り組み

出典：内閣官房HP　地域脱炭素ロードマップ（概要）より

※このページに表示しているイラストは先行地域そのもののイメージであり、先行地域の外から再エネを供給する再エネ立地地域のイメージは紙面の都合上記載していない。

全国９の国立公園で来訪者に体験の場を

環境省は、脱炭素などの取り組みを積極的に進めている国立公園を「ゼロカーボンパーク」に登録している。温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させるカーボンニュートラルのショーケースとして、国立公園の来訪者に脱炭素化の持続可能なライフスタイルを体験してもらう場としたい考えだ。ここでは主な国立公園の取り組みを同省資料などをもとに紹介する。

ゼロカーボンパーク一覧

中部山岳国立公園（乗鞍高原）長野県松本市
伊勢志摩国立公園（志摩市）三重県志摩市
日光国立公園（塩原温泉・板室温泉地区）栃木県那須塩原市
妙高戸隠連山国立公園（妙高市）新潟県妙高市
阿寒摩周国立公園（阿寒湖温泉）北海道釧路市
支笏洞爺国立公園（支笏湖）北海道千歳市
尾瀬国立公園（尾瀬かたしなエリア）群馬県片品村
阿寒摩周国立公園・釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町
釧路湿原国立公園（釧路市）北海道釧路市
日光国立公園（奥日光地域）栃木県日光市

登録の主な条件

1、該当自治体がゼロカーボンシティ表明を行っている、またはその予定であること
2、適切な森林管理や自然環境の保全による吸収量の確保を図るとともに、自然環境の保全に配慮した形で、需要側のカーボンニュートラルに向けた具体的な取り組みを行う予定があること。例えば、ビジターセンターやホテルなどの利用施設への自家消費型再エネ設備（太陽光、温泉熱）の導入、建築物の省エネ改修など。
3、国立公園のみならず、周辺の観光エリアやアクセスを含め、エリア全体の脱炭素化を進めるものであること。例えば、利用拠点間や最寄り駅からの交通の脱炭素化など。
4、脱炭素以外にもプラスチックゴミの削減など、サステナブルな観光地づくりに資する取り組みがあること。ウオーターサーバーの設置やプラスチック容器の削減など。
5、脱炭素・脱プラスチックの取り組みを国立公園利用者に対して普及啓発するものであること。掲示や展示、ウェブなどでの取り組み事例の紹介。

■伊勢志摩国立公園

21年6月25日登録、22年5月9日更新

レンタル事業や鉄道利用促進

三重県志摩市は伊勢志摩国立公園のリアス式海岸に代表される海沿いのエリアに立地。市のほぼ全域が国立公園内にある。2018年6月にSDGs未来都市に選ばれ、、20年2月には県で初めてゼロカーボンシティを表明した。ゼロカーボンパーク登録は日本で2番目となる。

2次交通の脱炭素化を図るため、レンタサイクルの推進に力を入れ、16年度に「バイシクルジャーニー」を開始し、専用サイトを設け、運用を開始。地域の玄関口である駅前にレンタル場所を開設し、サイクリングコース・ツアーを提案している。

また、マイカー観光に比べ環境負荷の小さい公共交通観光を推奨することにより、ゼロカーボンパークを推進。具体的には、近鉄と市が連携し、鉄道利用を前提とした旅行商品の造成、企画列車の運行などを実施。

市内全域における脱プラ・脱炭素の機運醸成を図るため、ゼロカーボンパークとして初めてマイボトルなどで利用できる給水器を導入。今年4月現在、市内の公共施設や宿泊施設などに計29台を導入している。現在、市オリジナルマイボトルの製作に取り組んでいるという。

20年からはアパレルメーカーと連携し、市内で回収した海洋ごみを環境価値の高い製品に変換する循環型の取り組みを推進している。市内で回収した海洋ごみを一部活用したTシャツも販売。

（22年4月時点）

■阿寒摩周国立公園（阿寒湖温泉）

22年3月18日登録

トレイル化構築温泉熱利用も

阿寒湖温泉（釧路市）は阿寒摩周国立公園を代表する阿寒湖の湖畔に発展した、ひがし北海道屈指の温泉観光地。湖の周囲には原生的な森林が残されており、湖には国の天然記念物で世界唯一の大型球状マリモの群生地がある。昨年2月にゼロカーボンシティを表明。

国立公園満喫プロジェクトの取り組みとして、ひがし北海道3空港を結ぶ「阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク」の構築を推進。阿寒湖温泉で導入したイーバイクの活用も含め、ゼロカーボンの移動手段によるトレイル活用に積極的だ。

阿寒湖温泉の旅館・ホテル、および市の公共施設では従来から温泉熱を利用した熱交換システムを導入しており、引き続き暖房設備の省エネを図っていくという。2022年度から整備する「阿寒アイヌクラフトセンター」（仮称）でも温泉熱利用の導入を予定している。

また、地域内の観光施設、公共施設などに阿寒山系のおいしい水道水である「くしろ阿寒百年水」の給水スポットを設け、マイボトルの利用によるペットボトルごみの削減を推進している。

（22年3月時点）

■中部山岳国立公園

21年3月23日登録、22年3月23日更新

ツアーなど実施脱プラ体験も創出

中部山岳国立公園は北アルプス一帯を占める日本を代表する山岳国立公園。乗鞍高原は公園南部に位置する標高3026㍍の乗鞍岳の東麓に広がる高原地帯で、日本初のゼロカーボンパークとして、2021年3月に登録された。

21年6月、11月に地域関係者が集まり、学識者らも招いて「のりくら高原ゼロカーボンフォーラム」を開催し、ゼロカーボンの在り方を議論。地域内でのサステナブルに関する知見を深めようと、今後も継続して実施する予定。

サステナブルツーリズムの取り組みでは、21年7月に脱炭素・脱プラ要素をツアーコンテンツに盛り込んだサステナブルキャンプ、同10月には学生を対象に、持続可能なライチョウ観察などサステナブルの仕組みを学ぶツアーも実施した。

脱炭素では、信州大が開発した給水スポット「ｓｗｅｅ」を観光センターに設置。また、コロンビアスポーツウェアジャパンとコラボしたマイボトルを販売。旅行者にも地域の脱プラを体験してもらうきっかけを創出した。

乗鞍観光センター・乗鞍自然保護センターなど鈴蘭地区周辺を乗鞍ゼロカーボンパーク拠点として上質化整備を実施する予定だ。

（22年3月時点）

■日光国立公園（塩原・板室温泉地区）

21年9月24日登録、22年5月9日更新

温泉熱を利用グリスロ事業も

塩原温泉街

栃木県那須塩原市は日光国立公園の那須甲子・塩原地域内に位置し、塩原、板室両温泉地区は美しい渓谷や良質な温泉を求めて多くの利用者が訪れる。

ゼロカーボンシティの表明は2019年12月で、全国12番目。同市はまた、グリーン・デスティネーションズ（オランダ）の「世界の持続可能な観光地トップ100選」（21年度）にも選ばれている。

ゼロカーボンパークに向け、板室では地域関係者を主体とした温泉熱の利用を検討。21年度には環境省事業によるワークショップを開催した。塩原では地熱エネルギーについて考える会を開催し、環境と調和し地域に貢献する再生可能エネルギーへの理解醸成に努めている。

また、塩原では県の事業によるグリーンスローモビリティ（時速20㌔未満で公道を走る4人乗り以上の電動車）を用いた自動運転バスの実証実験をもとに、二酸化炭素（CO_2）を削減する新たな交通手段を検討。さらに、プラごみ削減対策として、今年4月からレジ袋用に地域独自の紙袋を作り、地域店舗での導入を促進している。

（22年4月時点）

■尾瀬国立公園（尾瀬かたしなエリア）

22年4月21日登録

イーバイク使い周遊旅行展開

群馬県片品村は尾瀬国立公園の南西部に位置し、日本百名山である至仏山やわが国最大の山地湿原である尾瀬ヶ原を有する。過去に何度も開発の危機にさらされてきたが、多くの人の努力によって貴重な自然が保たれてきたことから、日本の「自然保護運動の原点」と呼ばれている。今年2月にゼロカーボンシティを表明した。

NPO法人が電動アシスト付きのスポーツ自転車「イーバイク」を使った国立公園エリアの周遊ツーリズムを展開。車で移動するよりも脱炭素の推進につながるだけでなく、周辺地域の長期滞在にもつながる取り組みとして評価されたという。

東京電力ホールディングスの完全子会社、東京パワーテクノロジーが管理する入山拠点の鳩待山荘をリニューアルし、上質化事業による再生可能エネルギー導入と電化を促進。他の山小屋にも高効率化給湯器やLED照明などを導入している。

このほか、有料ごみ袋削減のためのマイバッグ活用や地元の山林の木材を木道に使う地産地消の取り組みも行っている。

（22年4月時点）